

資料1 プーランク (1899-1963) 主要作品一覧

完成年	声楽曲	器楽・室内楽・協奏曲	舞台作品
1918		《3つの常動曲》 pf	
1919	《動物詩集》 アホリネール		
1923			バレエ《牝鹿》
1927		《田園のコンセール》 cmb	
1932	《仮面舞踏会》 ジャコブ	《協奏曲二短調》 2pf	
1936	《黒い聖母への連禱》		
1937	《ミサ曲・ト長調》 《ある日ある夜》 エリュアール		
1938		《オルガン協奏曲》	
1939	《偽りの婚約》 ウィルモラン	《六重奏曲》 管+pf	
1940	《平凡な話》 アホリネール 《愛の小径》 アヌイ、 《C》 アラゴン		
1941			1941 バレエ 《模範的動物たち》
1943	《人間の顔》 エリュアール 《メタモルフォーズ》 ウィルモラン	《ヴァイオリン・ソナタ》 《子象ババールの物語》	1944 オペラ
1944	《モンパルナス》 アホリネール	pfと語り	《ティレジアスの乳房》
1945	《カリグラム》 アホリネール		アホリネール
1948	《スターバト・マーテル》	《チェロ・ソナタ》:	
1950	《冷気と火》 エリュアール 《画家の仕事》 エリュアール		
1956			1955 オペラ 《カルメル会修道女の
1957	《グローリア》	《フルート・ソナタ》	対話》 ヘルナス
1959		《エレジー》 2pf 《即興曲第15番》 pf	1958 モノオペラ 《声》 コクトー
1961	《テネブルの七つの応唱》		
1962		《クラリネット・ソナタ》 《オーボエ・ソナタ》	

注： 声楽曲のうち、イタリック体は 合唱曲を表わす。
タイトルの中の半角文字はテキストの作者名を表わす。

資料2

・20世紀の「カンタータ」作品例

	作曲者 テキスト作者	タイトル	編成	目的など
1907	ヴォーン・ウィリアムズ ホイットマン	未知の世界へ	合唱、管弦楽	リーズ音楽祭 のため
1925	ヒンデミット アイヒェンドルフ他4	小カンタータ《セレナー デ集》	独唱S、オーボエ、 ビオラ、チェロ	5人の詩人の 5篇の詩による
1930	バルトーク 作曲者	カンタータ・プロファーナ	独唱(多数)、合唱、 管弦楽	ルーマニア民族 歌曲に基づく
1937	プロコフィエフ マルクス、レーニン スターリン	十月革命20周年のため のカンタータ	二重合唱、管弦楽、 軍楽隊、打楽器 アコーディオン、ハープ、 ピアノ、サイレン等々	十月革命 20周年記念
1937	ミヨー クローデル	平和のカンタータ	無伴奏混声8部 合唱	「戦争カンタータ」 (1940)と並ぶ
1938	ミヨー モーリス・カレーム	子供と母のカンタータ	弦楽四重奏、ピアノ 朗読	歌唱はない
1943	ウェーベルン ヒルデガルド・ヨーネ	第二カンタータ	独唱SB、合唱、 一管編成管弦楽	厳格なセリー。世 紀の傑作と評価
1943	ブーランク ポール・エリュアール	人間の顔	無伴奏混声6部 二重合唱	レジスタンスの 詩による
1946	ファリャ バルタゲール	アトランティーダ	独唱SMTB、合唱、 管弦楽	カタロニア語。 ファリャの遺作。
1951	ストラヴィンスキー 15、6世紀の詩集	カンタータ	独唱ST、女性合唱、 器楽五重奏	詩集はオーデン 編で英語訳詩
1953	オネゲル フォン・アルクス	クリスマス・カンタータ	独唱Br、児童合唱、 合唱、管、オルガン	オネゲル最後の 作品
1960	ブリテン 不詳	カンタータ・アカデミカ	独唱T、合唱 管弦楽	バーゼル大学 創立500周年

資料3

ブーランク × エリュアール 略年表

	ブーランク 1899-1963	エリュアール 1895-1952	備考
1895		セーヌ県サン・ドニ生	
1899	パリ生		
1903	4歳ごろ、母の手ほどきでピアノを始める		
1908		一家でパリへ。労働者街に住む	
1911	叔父に連れられ劇場やコンサート通い		
1912		肺結核のためスイスで転地療養 詩を耽読。ロシア女性ガラに出会う	
1913		本名で『初期詩篇』出版。	「春の祭典」初演
1914	ピアニスト、リカルド・ヴィニェスに師事	パリに帰る。ガラもロシアへ帰国 徴兵され海兵隊歩兵となる。	第一次世界大戦 勃発
1915	サティに出会う。母死去。 「本の友社」店主モニエに出会う。	前線で毒ガスにより気管支を患う	
1916	オーリックに出会う。	看護兵として従軍。ガラ、仏を訪れる	ツァラ「ダダ」創始
1917	《黒人狂詩曲》でデビュー。 マックス・ジャコブに出会う。父死去。 「ティレジアスの乳房」観劇	ガラと結婚。エリュアール名義で 詩集『義務と不安』出版。 「ティレジアスの乳房」観劇	サティ「パレード」 アポリネール「ティ レジアスの乳房」
1918	ピアノ曲《3つの常動曲》 歌曲集《動物詩集》アポリネール モニエ書店でエリュアールに会う	娘セシル誕生。『平和のための詩 集』刊行。アラゴン、ブルトンに出会 う、モニエ書店を訪れる	アポリネール没 ツァラ「ダダ」宣言
1920	「六人組」大々的にデビュー	詩集『動物たちとその人間たち』刊行	
1924	ディアギレフのバレエ《牝鹿》成功	詩集『死なずに死ぬこと』刊行 世界一周の放浪の旅へ	ブルトン『シュル レアリスム宣言』
1926	ワンダ・ランドフスカとの出会い 《田園コンセール》(チェンバロ)委嘱	前年より機関誌『シュルレアリスム革 命』編集協力。詩集『苦悩の首都』	
1927	トゥール地方ノワゼーに別荘。 作曲の拠点とする。	アラゴン、ブルトンと共に共産党 入党。(のち除名)。	
1929	リシャール(男性)との恋に落ちる 幼馴染リノシエに求婚を断られる	詩集『愛・詩』(ガラに捧げる) ガラ、ダリと結ばれる?	
1930	リノシエ急死で深い痛手	詩集『あらゆる試練に』 ニュッシュと結婚	
1933	前年《協奏曲二短調》(2台ピアノ) 即興曲集、間奏曲などピアノ曲多数	前年、詩集『直接の生』、 戦争反対国際会議に参加	ナチス政権成立
1935	エリュアールの詩による初の歌曲集	ブルトンとブラハへ旅行	

	《5つの詩》。初演ベルナック		
1936	カトリックに回心 合唱曲《黒い聖母の連禱》	『詩に関するノート』(フルトンとの共著) 刊行。ピカソ展講演にスペインへ。	スペイン内乱 ロルカ銃殺される
1937	《ある日ある夜》 エリュアール	詩「ゲルニカの勝利」	ゲルニカ破壊
1939	《燃える鏡》他1作・エリュアール 『私の歌曲日記』執筆開始	『完全な歌』『見えるものにする』 経理部主計中尉として応召。	第二次世界大戦 仏総動員令
1940	高射砲隊に応召。5週間の従軍。	『開かれた本』刊行	パリ、占領下に
1941	バレエ《模範的動物》	レジスタンスに参加	ヴィシー政権
1942	主に演奏活動を仕事とする。 《村人たちの唱》フォンブール	共産党再入党。秘密出版物多数 刊行。『詩と真実、1942年』	
1943	《人間の顔》 エリュアール 歌曲《C》アラゴン	ドイツ軍の追跡を受け住居転々精神 病院に隠れ、抵抗詩執筆、	
1944	小カンタータ《雪の夜》 エリュアール	『ドイツ兵の集合地にて』	8月末パリ解放
1945	《人間の顔》 BBC で世界初演 ベルナックと3回の英国公演	ヴィシーで講演 『1944年4月パリはよみがえった』	ベルリン陥落 終戦
1946	《消えた男》デスノス 《ガルシア・ロルカの3つの唄》	東欧、イタリア、ギリシャに旅 ニュッッシュ急死。悲嘆にくれる	
1947 -50	ラジオ番組「とりとめのない話」開始 ベルナックと2回の北米演奏旅行	平和、自由、独立の集会で講演のため、 数年にわたり世界各国を訪問	
1951	3作品のみ。、北米旅行準備。	ドミニクと結婚。『不死鳥』刊行	
1952	北米とベネズエラに演奏旅行。 《クリスマスの4つのモテット》	11・18 パリ自宅で病没 12月『万人のための詩』刊行	
1953	オペラ《カルメル会修道女の対話》 着手、55年完成		
56	《画家の仕事》 エリュアール		
57	《フルート・ソナタ》		
58	モノオペラ《人間の声》コクトー		
59	60歳記念演奏会・《グローリア》		
60	歌手デュヴァルと北米演奏旅行		
61	同上		
62	《テネブルの7つの応唱》 《クラリネット・ソナタ》 《オーボエ・ソナタ》		
1963	1・30 パリ自宅で心臓発作のため急死 4・10 カーネギーHで追悼演奏会		

資料4 プーランクが使用したエリュアールの詩集 (斜字体は合唱曲を示す)

出版年	詩集タイトル	詩の数	楽曲タイトル	FP	完成年
1922	Répétition 反復	1	<i>Sept chansons</i>	81	1936
1932	La Vie immédiate 直接の生	4	七つの唄 (5曲) *		
1930	À toute épreuve あらゆる試練に耐えて	5	Cinq poèmes d'Éluard エリュアールの五つの詩	77	1935
1935	Facile 容易	1	Tel jour telle nuit	86	1937
1936	Les yeux fertiles 豊かな眼	8	ある日ある夜 (9曲)		
1938	Cours naturel 自然な流れ	1	Ce doux petit visage この優しい小さな顔	99	1939
1939	Chanson complète 完全な唄	2	Miroirs brûlants 燃える鏡 (2曲)	98	1939
1940	Le livre ouvert I 開かれた本 I	1 **	La Fraîcheur et le feu 冷気と火 (7曲)	147	1950
1942	Poésie et vérité 1942 詩と真実、1942年	8	Figure humaine 人間の顔 (8曲)	120	1943
1942	Poésie et vérité 1942 詩と真実、1942年	3	Soir de neige 雪の夜 4曲)	126	1944
1944	Dignes de vivre 生きるに値する	1			
1926	Capitale de la douleur 苦悩の首都	3	Le Travail du peintre 画家の仕事 (7曲)	161	1956
1946	Voir *** 見る	2			
"	Poésie ininterrompue 途絶えざる詩	1			
"	Le Dur désir de durer 持続することへの 厳しい望み	1			

* 《七つの唄》の残り2曲はアポリネールの詩

** 《冷気と火》は1篇の長い詩を7つに分けて使用

*** プーランクが使用したのは、これらを全部含んだ1948年刊の

Voir : poème, peintures, dessin という詩集である。

資料5

カンタータ《人間の顔》 全8曲の概要と配列

	詩行数	小節数	テンポ	時間(秒)	形式	合聲形態	テクスチャ	主な調性	性格	発想用語	人物・情景
1・この世のすべての 春の中で	17	39	♩ = 60	3分	通作	1 + 2	ホモフォニック	♩短調	静重	Très large	「僕」 潜伏 隠れ家 支配者
2・歌いながら修道女 たちは突き進む	18	47	152 後半 ♩ = ♩	2分	通作	1 + 2	交唱	♩短調	動軽	Très animé et rythmé Très calme	修道女たち 殺戮 凌辱 支配者
3 沈黙のように低い	10	20	50	2分弱	通作	1 + 2	ホモフォニック	変♩短調	静暗	Très calme	死者たち 暗闇 夜
4. きみ 僕の 辛抱づよいひと	4	30	60	2分	AATBA'	Ch 1のみ	ホモフォニック	♩長調	静明	Très calme	「きみ」 「僕」 辛抱 愛 再生
5・空と惑星たちを笑う	9	37	134	1分	AA'AA	1 + 2	交唱	嬰♩短調	動軽	Très vite	利口者 (支配者) 狂った者 (レジスタンス)
6・星が私を驚かせ 夜が私を怖がらせる	7	20	54	2分弱	AA'BA'	Ch 2のみ	キヤ ポリフォニック	♩短調	静悲	Très calme	「僕」 狼 不安
7・赤い空の下の脅威	25	62	84	3分	通作	1 + 2	姉妹対唱的導入 交唱	半音階 嬰♩長調	動鋭強	Très emporté et rude	赤い空 (戦争) 死者たち
8・自由	85	120	86, 96 120, 132 138, 132 80	5分	通作	1 + 2	交唱 ホモフォニック	♩長調	静動強	Calmement mais allant, quand même Allargand mollo	「僕」 「きみ」 日常 成長、体験 森羅万象

注：「詩行数」はユリユールのテクストに基づく。

資料6 Liberté (第8曲) 詩行の配置図

- エリュエールの詩は21連(各4行) + 1語 (Liberté) から成り、各連の4行は殆どが Sur.../Sur.../Sur.../J'écris ton nom. の形をとる。
- 以下の表では、この各行を a/b/c/D の記号で表す。D'は、この行の一部(主に ton nom)を意味する。
- G1, G2 は、それぞれ混声6部で編成される合唱のグループ1, 2を表す。

	J=80			J=96			J=120			J=132							
(連)	1 pp	2 p	f	3 mf	4 pp	f	5 pp	6 f	ff	p	7 pp	f	8 p	f	9 pp	f	
G1	a b c	a b c		a b	a b	D	D	--	c	D	a b	D	a c	D	--D'	D D	
G2	D	D	D	c	D	c	abc	D	ab	D	--	c	D'	b	D	abc	D

J=138

	10 p	f	11 ff	12 pp	p	13 p	f	p	14 pp	15 p	ff	16 p	17 mf	f	18 f														
G1	a	D c	aD c	D'	a	c	a b	c	a	c	D	--	c	D	abD'	D	D'	b	D	--D'	b	c							
G2	DD'	b	D'--	...b	D'	D	D'	b	c	a	b	c	a	b	c	b	D	ab	D	--D'	c	D	D'	a	D'	c	--	a	D

J=132 J=80

	19 ff	20 p	f	21 ff	ff				
G1	D' b	D	D'	c	D	a b	c	(tutti)	
	D	--	D'	D	D'	D	D	Liberté	
G2	a	D'	c	a b	D'	D	a b	c	(tutti)
	D'	D	D'	D	D'	D	D'	D	Liberté

I De tous les printemps du monde

Très large J=60

1 Infirmement doux

	<i>ff</i> 1	7	<i>mp</i>	<i>p</i>	<i>ff</i>	12 <i>pp</i>
S	<i>ff</i>	le plus laid		②Celui-ci est le plus laid	le plus laid	③Entre toutes mes façons d'être
M		le plus laid			le plus laid	
A			①De tous les printemps du monde	②Celui-ci est le plus laid	le plus laid	
T		le plus laid			le plus laid	
Br		le plus laid			le plus laid	③Entre toutes mes façons d'être
Bs		le plus laid			le plus laid	③Entre toutes mes façons d'être
S		le plus laid			le plus laid	
M		le plus laid			le plus laid	
A		le plus laid			le plus laid	
T		le plus laid			le plus laid	
Br	(半教の2+) ↓	le plus laid			le plus laid	
Bs	①De tous les printemps du monde ②Celui-ci est le plus laid	le plus laid		(全員)	le plus laid	

2

	15 <i>mf</i>	17 <i>f</i>	18 <i>pp</i>	19 <i>mf</i>	<	<i>f</i>
S	④La confiante est la meilleure		⑦Moi je dors dans la tempête			
M	④La confiante est la meilleure		⑦Moi je dors dans la tempête		⑧Et je m'éveille les yeux clairs	
A	④La confiante est la meilleure		⑦Moi je dors dans la tempête		⑧Et je m'éveille les yeux clairs	
T	④La confiante est la meilleure		⑦Moi je dors dans la tempête		⑧Et je m'éveille les yeux clairs	
Br	④La confiante est la meilleure		⑦Moi je dors dans la tempête		⑧Et je m'éveille les yeux clairs	
Bs			⑦Moi je dors dans la tempête		⑧Et je m'éveille les yeux clairs	
S						
M		⑥Comme la pierre d'un tombeau				
A	⑤L'herb soulève la neige	⑥Comme la pierre d'un tombeau				
T	⑤L'herb soulève la neige	⑥Comme la pierre d'un tombeau				
Br	⑤L'herb soulève la neige	⑥Comme la pierre d'un tombeau				
Bs	⑤L'herb soulève la neige	⑥Comme la pierre d'un tombeau				

3

	22 <i>mf</i>	24	<	<i>f</i>	26 <i>p</i>	28 <i>mf</i>	<	30 <i>ff</i>	>	<i>pp</i>
S										⑬ Je les connais ils ont tout dit
M						⑬ Je n'entends pas parler les monstres				⑭ Je les connais ils ont tout dit
A						⑬ Je n'entends pas parler les monstres				⑭ Je les connais ils ont tout dit
T						⑬ Je n'entends pas parler les monstres				⑭ Je les connais ils ont tout dit
Br						⑬ Je n'entends pas parler les monstres				⑭ Je les connais ils ont tout dit
Bs						⑬ Je n'entends pas parler les monstres				⑭ Je les connais ils ont tout dit
S	⑨) Le lent le petit temps s'achève	⑩) Par mes plus intimes retraites								⑮) Je ne
M	⑨) Le lent le petit temps s'achève	⑩) Par mes plus intimes retraites			⑫) Pour que je rencontre quelqu'un					
A	Le temps s'a - chève	⑩) Par mes plus intimes retraites			⑫) Pour que je rencontre quelqu'un					
T	le petit temps s'achève	⑩) Par mes plus intimes retraites			⑫) Pour que je rencontre quelqu'un					
Br	⑩) [Où	toute rue devait passer]								
Bs										

4

5

	32 <i>pp</i>	34	très doux et très lié	36 <i>pp</i> (<i>ch2-ppp</i>)	<	<i>f</i>	>	Éclatant	38 <i>subito</i>	>	<i>pp</i>
S				⑬) Sûrs de ruiner bientôt leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
M				⑬) Sûrs de ruiner bientôt leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
A								leurs maî	-	tres	
T				⑬) Sûrs de ruiner bientôt leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
Br				⑬) Sûrs de ruiner bientôt leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
Bs				⑬) de ruiner leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
S	⑭) Je ne vois que les beaux visages	⑭) Les bons visages sûrs d'eux-mêmes		⑭) de ruiner leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
M	les beaux	vi - - - sa - ges		⑭) de ruiner leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
A	les beaux	vi - - - sa - ges		⑭) de ruiner leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
T	⑭) Les bons	vi - sa - ges	sûrs d'eux-mê - mes	⑭) de ruiner leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
Br	les bons	vi - - - sa - ges		⑭) de ruiner leurs maîtres				leurs maî	-	tres	
Bs				⑭) de ruiner leurs maîtres				leurs maî	-	tres	

II En chantant les servantes s'élancent...

原注・ソプラノとアルト以外の歌詞は明確に聞こえなくてよい

[6] Très animé et rythmé J=152

	(小節)1	<i>f</i>	3 <i>f</i>	5 <i>p</i>	8 <i>mf</i> <i>violant</i>	<i>mf</i>
S					aux soupiraux de la fraîcheur	comme une expérience
M	① En chantant les servantes s'élancent				vite agenouillées	comme une expérience
A	<i>la</i>	<i>p</i> <i>lalalalalala la</i>	<i>la</i>	<i>mf</i> <i>lala lalalalalalala la</i>	<i>lalalala lalalalalalala</i>	<i>lalalalalalalalala</i>
T					③Petites filles en poudre vite agenouillées	comme une expérience
Br						
Bs						
S					<i>ff</i> (violent) Leurs mains	<i>ff</i> Sont bleuc
M					②Pour rafraîchir la place où l'on tuait	<i>ff</i> Sont bleuc
A	<i>lalalalalalala la</i>	<i>lalalalalalala la</i>	<i>lalalala la</i>	<i>lalalala lalalala la</i>	<i>lalalala lalalala la</i>	<i>la</i>
T					<i>ff</i> (violent) Leurs mains	<i>ff</i> Sont bleuc
Br						
Bs						

[7]

						Sans ralentir
11	<i>f</i>	12 <i>ff</i>	<i>mf</i>	16 <i>pp subito</i>	18 très lié	
S					③Petites filles en poudre vite agenouillées	
M					③Petites filles en poudre vite agenouillées	
A		<i>f</i> <i>la</i>	<i>lalalalalala</i>	③Petites filles en poudre vite agenouillées	<i>lalalalalalalala</i>	<i>lalalalalalalala</i>
T		En chantant	<i>la</i>	<i>lalalalalala</i>		
Br						
Bs						
S	⑥Un grand matin joyeux				④Leurs mains aux soupiraux	
M	⑥Un grand matin joyeux	<i>f</i>	②Pour rafraîchir la place où l'on tuait		④Leurs mains aux soupiraux de la fraîcheur	
A		<i>f</i> <i>lalalalalalalala</i>	<i>f</i> ②Pour rafraîchir la place où l'on tuait		<i>lalalalalalala lalalalalalala</i>	
T	⑥Un grand matin joyeux	<i>mf</i> <i>lalalalalala</i>	<i>la</i>	③Petites filles en poudre vite agenouillées		
Br	⑥Un grand matin joyeux					
Bs						

20 <i>f subito</i>		22 <i>ff très violent</i>		24
S				
M	⑤ Sont bleus comme une expérience	⑦ Fai - tes face à leurs mains	les morts	⑧ Fai - tes face à leurs yeux liquides
A	<i>lalalala lalalala la</i>	⑦ Fai - tes face à leurs mains	les morts	⑧ Fai - tes face à leurs yeux liquides
T	<i>ff</i> ⑥ Un grand matin joyeux	⑦ Faites face faites face à leurs mains	les morts	⑧ Faites face faites face à leurs yeux liquides
Br	<i>ff</i> ④ Un grand matin joyeux	⑦ Fai - tes face à leurs mains	les morts	⑧ Fai - tes face à leurs yeux liquides
Bs		⑦ Fai - tes face à leurs mains	les morts	⑧ Fai - tes face à leurs yeux liquides
S				
M	<i>ff</i> ④ Un grand matin joyeux			
A	<i>ff</i> ⑤ Un grand matin joyeux			
T	<i>lalalala lalalala la</i>			
Br	<i>lalalala lalalala la</i>			
BS				

26 <i>ff</i>		<i>ff</i>	29 <i>ff</i> très violent	32 <i>f</i>	<i>mf</i>
S					
M		⑩ La dernière toilette de la vie		Dans l'eau vaste	
A		⑩ La dernière toilette de la vie		essentielle	
T		⑩ La dernière toilette de la vie			
Br					
Bs					
S	⑨ C'est la toilette des éphémères		⑪ Les pierres descendent disparaissent		
M	⑨ C'est la toilette des éphémères		⑪ Les pierres descendent disparaissent	Dans l'eau vaste	
A	⑨ C'est la toilette des éphémères		⑪ Les pierres descendent disparaissent	essentielle	
T	⑨ C'est la toilette des éphémères		⑪ Les pierres descendent disparaissent		
Br	⑨ C'est la toilette des éphémères		⑪ Les pierres descendent disparaissent		
BS	⑨ C'est la toilette des éphémères		⑪ Les pierres descendent disparaissent		

9 極めて穏やかに 遅めたテンポの倍の速さで

	35	<i>pp</i>	<i>très doux mais bien articulé</i>	38	<i>pp</i>
S	⑬	La dernière toilette des heures		⑮	Aux puits taris de la vertu
M	⑬	La dernière toilette des heures		⑮	Aux puits taris de la vertu
A				⑮	Aux puits taris de la vertu — ⑰ un sou - ve - nir ém - u
T				⑰	Aux longues absences combrantes
Br					
Bs					
S		<i>p</i>	⑱ A peine un souvenir ému	⑲	Aux longues absences combrantes
M			⑱ A peine un souvenir ému	⑲	Aux longues absences combrantes
A	* <i>ppp</i>	⑲	La der - miè - re toi - let - te dcs heu - res		
T			<i>pp</i>	⑲	A peine un souvenir ému
Br					
Bs					

*アルト2 = 詩編詠唱のように平板に読む

10

	42	<i>pp</i>	(Sのみ <i>p</i>)	44	<i>p</i>	46	<i>mif</i>	<i>p</i>	<i>pp</i>	<i>long</i>	>	<i>ppp</i>
S	⑳	Et l'on s'abandonne à la chair très tendre		㉒	Et l'on s'abandonne à la chair très tendre		de	la	fai - bles - se			
M	⑳	Et l'on s'a - ban - donne		㉒	Et l'on s'a - ban - donne		de	la	fai - bles - se			
A	⑳	Et l'on s'a - ban - donne		㉒	Et l'on s'a - ban - donne		de	la	fai - bles - se			
T	㉑	Et l'on s'a - ban - donne		㉒	Et l'on s'a - ban - donne		de	la	fai - bles - se			
Br	㉑	Et l'on s'a - ban - donne		㉒	Et l'on s'a - ban - donne		de	la	fai - bles - se			
Bs												
S				㉓	Aux prestiges de la faibles - se		fai - bles - se					
M				㉓	Aux prestiges de la faibles - se		fai - bles - se					
A				㉔	la chair très ten - dre		fai - bles - se					
T							fai - bles - se					
Br				㉓	Aux prestiges de la faibles - se		fai - bles - se					
Bs				㉔	la chair très ten - dre		fai - bles - se					

III Aussi bas que la silences

		12	
		5	10
		1 p	7 pp
S			④Aussi monotone et sourd ⑤Que l'automne dans la mare
M			④Aussi monotone et sourd ⑤Que l'automne dans la mare
A			④Aussi monotone et sourd ⑤Que l'automne dans la mare
T			④Aussi monotone et sourd ⑤Que l'automne dans la mare
Br			④Aussi monotone et sourd ⑤Que l'automne dans la mare
Bs			⑤Que l'automne dans la mare
Ch 1 Tacet			
S			
M			
A	①Aussi bas que le silence ② D'un mort planté dans la terre	③Rien que ténèbres en tête	Ch 2 Tacet
T	①Aussi bas que le silence ② D'un mort planté dans la terre	③Rien que ténèbres en tête	
Br	①Aussi bas que le silence ② D'un mort planté dans la terre	③Rien que ténèbres en tête	
Bs	①Aussi bas que le silence ② D'un mort planté dans la terre	③Rien que ténèbres en tête	

		13	
		très lié	en écho
		12	16 p
		11	16 p
S	⑥Couverte de honte mate	⑧Et de ses bêtes dorées	les hommes
M	⑥Couverte de honte mate	⑧Et de ses bêtes dorées	Bouche fermée
A	⑥Couverte de honte mate	⑧Et de ses bêtes dorées	Bouche fermée
T	⑥Couverte de honte mate	⑧Et de ses bêtes dorées	les hommes
Br	⑥Couverte de honte mate	⑧Et de ses bêtes dorées	
Bs			
S	⑦Le poison veuf de sa fleur ⑧Et de ses bêtes dorées		
M	⑦Le poison veuf de sa fleur ⑧Et de ses bêtes dorées		
A	⑦Le poison veuf de sa fleur ⑧Et de ses bêtes dorées		⑨Crache sa nuit sur les hommes
T	⑦Le poison veuf de sa fleur ⑧Et de ses bêtes dorées		⑨Crache sa nuit sur les hommes
Br	⑦Le poison veuf de sa fleur ⑧Et de ses bêtes dorées		⑨Crache sa nuit sur les hommes
Bs			⑨Crache sa nuit sur les hommes

IV Toi ma patiente...

(合唱1のみ) 14 ↓ = 60 Très calme et doux

		1 <i>pp</i>	4 <i>p</i>	8 <i>pp subito</i>
Ch1	S M A T Br Bs	① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente ~~~~(半教：唇を閉じて)~~~~ ① Toi ma patiente ma patience ma parente	② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente	① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente ~~~~(半教：唇を閉じて)~~~~ ① Toi ma patiente ma patience ma parente

イ長調

16 Très lié

		15 <i>mf</i>	<i>f > p</i>	28 <i>ff</i> <i>Éclatant</i>
Ch1	S M A T Br Bs	③ Révérenc cachant tous les ciels dans sa grâce ① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente	② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente ② Gorge haut suspendue orgue de la nuit lente	④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance na i traï ④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance

変ニ長(短)調

変ニ長(短)調 (曖昧)

ロ短調

イ短調

17 très doux

		23 <i>pp</i> 極めて優しく	25 <i>p</i>	27 <i>pp</i>
Ch1	S M A T Br Bs	① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente ① Toi ma patiente ma patience ma parente ~~~~(半教：唇を閉じて)~~~~ ① Toi ma patiente ma patience ma parente	②' Gorge haut suspendue ②' Gorge haut suspendue ②' Gorge haut suspendue ②' Gorge haut suspendue ②' Gorge haut suspendue	④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance na i traï ④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance un lit d'où je na i traï ④ Prépare à la vengeance na i traï

イ長調

イ短調

イ長調

V Riant du ciel et des planètes ...

18 Très vite et très violent J=184

	1* ff(p) **	2 f	f(ml)	3 ff (ml)	5 ff (f)	6 ff	7 mf (pp)
S	①Riant du ciel et des planètes			Les sage Veulent des fils		⑥	⑧L'a
M	Riant des planètes	③Les		sage Veulent des fils	Jus	- qu'à péir d'un usure	L'a
A	Riant des planètes	Les		sage des fils	Jus	- qu'à péir d'un usure	ne
T		Les		sage des fils	Jus	- qu'à péir d'un usure	ne
Br	Riant des planètes	Les		sage des fils	Jus	- qu'à péir d'un usure	ne
Bs		Les		sage des fils			
S	②La	bouche imbibée de onfiance		⑤Et des	⑦Le		temps ne pèse que les fous
M		La bouche imbibée		Et des			pèse que les fous
A		La bouche imbibée		Veü			pèse que les fous
T				Veü			pèse que les fous
Br		La bouche imbibée		Veü			
Bs							

20

	8 mf(p)	9 f	ff	12 ff (p)	14 ff (p)	15 ff (f)
S	- bime est seul à verdoyer		①Ri -	ant du ciel et des planètes		
M	- bime est seul à verdoyer		ri·di·cu·le	Riant des planètes	③Les	sage ④Veulent des fils
A	pèse que les fous		ri·di·cu·le	Riant des planètes	Les	sage des fils
T	pèse que les fous		ri·di·cu·le		Les	sage des fils
Br	pèse que les fous		ri·di·cu·le	Riant des planètes	Les	sage des fils
Bs			ri·di·cu·le		Les	sage des fils
S				② La	bouche imbibé de confiance	⑤Et des
M	③Et les	sages sont ridicules	ri·di·cu·le		La bouche imbibé	Et des
A	sont	ri·ri· di·cu·les			La bouche imbibé	Et des
T	sont	ri·ri· di·cu·les				Et des
Br	sont	ri·ri· di·cu·les			La bouche imbibé	Et des
Bs	sont	ri·ri· di·cu·les				Et des

21

	16 ff	17 ff	18 mf (pp)	19 mf (p)	20 ff
S				- bême est seul à verdoyer	Et les
M	⑥Jus-	- qu'à périr d'un usure	③L'a-	- bême est seul à verdoyer	Et les
A	Jus-	- qu'à périr d'un usure	ne	pèse que les fous	Et les
T		-	ne	*pèse que les fous	
Br	Jus-	- qu'à périr d'un usure	ne	pèse que les fous	
Bs				(*子ノ一ル半数のみ)	
S	fils de leurs fills	⑦Le	temps ne pèse que les fous		⑨ -
M	fils de leurs fills		pèse que les fous	③Et les	sages sont ridicules Et les
A	fils de leurs fills		pèse que les fous	Et les	sages sont ridicules Et les
T	fils de leurs fills		pèse que les fous	Et les	sages sont ridicules Et les
Br	fils de leurs fills			Et les	sages sont ridicules Et les
Bs				Et les	sages sont ridicules Et les

22

	22 ff	24 ff (p)	26 ff (p)	27 ff (md)	28 ff (md)	29 ff
S	sages sont ridicules		bouche imbibée de onfiance	⑤Et des	fils de leurs fills	⑦ Le
M	sages sont ridicules	② La	bouche imbibée de onfiance	Et des	fils de leurs fills	
A	sages sont ridicules	La	La bouche imbibée	Veur-	lent des fils	
T	sages sont ridicules		La bouche imbibée	Veur-	lent des fils	
Br	sages sont ridicules		La bouche imbibée	Veur-	lent des fils	
Bs	sages sont ridicules		La bouche imbibée			
S	① Ri-	- ant du ciel et des planètes	③ Les	sage ④ Veulent des fils		
M	sages sont ridicules	Riant des planètes	Les	sage Veulent des fils	⑥Jus-	- qu'à périr d'un usure
A	sages sont ridicules	Riant des planètes	Les	Les sage des fils	Jus-	- qu'à périr d'un usure
T	sages sont ridicules		Les	Les sage des fils	Jus-	- qu'à périr d'un usure
Br	sages sont ridicules	Riant des planètes	Les	Les sage des fils	Jus-	- qu'à périr d'un usure
Bs	sages sont ridicules		Les	Les sage des fils		

23

très violent

24 Surtout sans ralentir

	30 <i>f</i> (<i>mf</i>)	31 <i>f</i> (<i>p</i>)	32 <i>f</i> (<i>f</i>)	36 <i>f</i> (<i>f</i>)	<i>f</i>	<i>ff</i>
S	temps ne pèse que les fous	⑨Et les	sages sont ridicules			ridicule
M	pèse que les fous	les	sages	les sage		ridicule
A	pèse que les fous	les	sages	les sage		ridicule
T	pèse que les fous	Et les	sages sont ridicules			ridicule
Br		les	sages	les sage		ridicule
Bs		les	sages	les sage		ridicule
S	⑩L'a·	· bîme est seul à verdoyer		⑩Et les	sages sont ridicules	ridicule
M	L'a·	· bîme est seul à verdoyer		les	sages	les sage
A	? L'a	pèse que les fous		les	sages	les sage
T	? L'a	pèse que les fous		Et les	sages sont ridicules	ridicule
Br	? L'a	pèse que les fous		les	sages	les sage
Bs				les	sages	les sage

注) *強弱欄の数字は小節数を表わすが、冒頭の1音(合唱1のソプラノの「Ri」)は、第1小節ではなく、これに先立つアフタクトである。

**強弱記号のうち、太字のものは歌詞の太字のパートの強弱を示す。太字記号の後に (*p*) 等の括弧付き記号があるものは、細字パートの強弱を示す。括弧付き記号のない強弱記号は、当該箇所全パートの強弱を示す。

歌詞の前にある丸数字①②…は、その詩句にあたる原詩の行数を示す(本文参照)。

詩行の繰り返しはすべてブーランクによるもので、エリユールによるものではない。繰り返しのパターンについては、本文で詳述する。

? この低音部3パートの歌詞は譜面通りでは意味も形も成さない「非文」であり、ブーランクの誤記または誤植の可能性が高い。正しくは [21] と同じく *ne* であろう。その詳細は本文の「付曲について」で述べる。

VI Le jour m'étonne et la nuit me fait peur...

コーラス2のみ

原注・ソプラノの歌詞は特に注意してよく聴くこと

注・p (pp) は、主旋律がp、他パートがppであることを示す

25 Très doux et très calme J=54

26

	p (pp) très lié	p (pp) sempre
S	Le jour métonne et la nuit me fait peur L'é-té me hante et l'hiver me poursuit	Un animal sur la neige a posé Ses pattes sur le sable ou dans la boue
M	Le jour m'é-ton-ne l'é-té me hante et me pour-suit	a po-sé sur le sable Ses pat-tes dans la boue
A	Le jour mé-tonne et la nuit - pour - suit	Un a-ni-mal sur la neige
T	Lié-té me hante et me poursuit.	
Br	pour - suit	sur la nei-ge ou dans la boue
Bs		

27

	p (pp) < Pour tous	f >	p (pp)
S	Ses pattes venues de plus loin que mes pas Sur une piste où la mort	A les empreintes de la vie	
M		de la vie	
A	Ses pat-tes venues de plus loin Sur u-ne piste où la mort		Le jour m'étonne et la nuit me fait peur L'é-té me hante
T	Ses pat-tes venues de plus loin Sur u-ne piste où la mort	de la vie	Le jour m'é-ton-ne L'é-té me hante
Br		de la vie	
Bs	Ses pat-tes venues de plus loin Sur u-ne piste où la mort		Le jour m'é-tonne et la nuit me fait peur

	pp (ppp) désolé Surtout sans ralentir	> ppp(pppp)
S	et l'hiver l'hiver me poursuit ...	
M	l'hi-ver l'hiver me poursuit ...	
A	l'hi-ver l'hiver me poursuit ...	
Br	et l'hiver l'hiver me poursuit ...	
Bs	l'hi-ver l'hiver me poursuit ...	
Bs	l'hi-ver l'hiver me poursuit ...	

VII La menace sous le ciel rouge

28 Très importé et rude = 84

		<i>1 ff</i>	<i>ff</i>	<i>ff</i>
Ch1	A	①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an-		

		29	30	9	11
Ch1	S A T	5 <i>ff</i> - neaux neaux ①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an-	① La menace sous le ciel rouge ②a Venait d'en bas ③a Des écailles - neaux - neaux		② Venait d'en bas des má ②b des mâchoires
Ch2	A T	①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an-	②a Venait d'en bas ③a Des écailles		②b des mâchoires

		31	13 <i>ff</i>	
Ch1	S A Br	- neaux des anneaux ②a Venait d'en	neaux bas ①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an-	
Ch2	S M A T Er	③b des anneaux ②a Venait d'en	①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an- ①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an- ①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an- ①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an- ①La menace sous le ciel rouge ②Venait d'en bas des mâchoires ③Des écailles des an-	

	17 ff	19 ff très violent	
Ch1	S M A T Br Bs	④ D'une chaîne glissante et lourde ④ D'une chaîne glissante et lourde ④ D'une chaîne glissante et lourde neaux ④ D'une chaîne glissante et lourde	⑥ pour que la mort prit ⑦ a aux sérieux
Ch2	S M A T Br Bs	⑤ La vie était distribuée ⑥ a Largement ⑤ La vie était distribuée ⑥ a Largement	⑦ b le tri -

	23	24	26 ff	28 ff
Ch1	S M A T Br Bs	⑨ La mort était le dieu d'amour ⑨ La mort était le dieu d'amour ⑨ La mort était le dieu d'amour ⑨ La mort était le dieu d'amour ⑨ La mort était le dieu d'amour ⑨ La mort était le dieu d'amour	⑩ Et les vainqueurs dans un baiser ⑩ Et les vainqueurs dans un baiser ⑩ Et les vainqueurs dans un baiser ⑩ Et les vainqueurs dans un baiser ⑩ Et les vainqueurs dans un baiser ⑩ Et les vainqueurs dans un baiser	⑪ S'évanouissaient sur leurs victimes ⑪ S'évanouissaient sur leurs victimes ⑪ S'évanouissaient sur leurs victimes ⑪ S'évanouissaient sur leurs victimes ⑪ S'évanouissaient sur leurs victimes ⑪ S'évanouissaient sur leurs victimes
Ch2	S M A T Br Bs	- but ⑧ Qu'on lui payait sans compter - but ⑧ Qu'on lui payait sans compter - but ⑧ Qu'on lui payait sans compter		⑫ La ⑫ La ⑫ La ⑫ La ⑫ La

33 Subito le double plus lent du Tempo cédé

	31	35 自由に	38 p < f	39 f > 非常に短く p
Ch1	M A Br	⑫' du cœur ⑭' du cœur	⑬La ca'	- verne se ferma
Ch2	S M A T Br Bs	pouriture avait du cœur pouriture avait du cœur pouriture avait du cœur pouriture avait du cœur pouriture avait du cœur	⑮ Sous a famine lugubre ⑯ Sous a famine lugubre ⑰ La ca' ⑱ Sous a famine lugubre ⑲ La ca' ⑳ Sous a famine lugubre ㉑ La ca'	> - verne se ferma - verne se ferma - verne se ferma

34 J = J Reprendre le tempo ineffablement doux et

sans nuance jusqu'à 36

	42 pp 極めてレガートで	35 36	47	51 f subito
Ch1	全	⑰La terre utile effaçà ⑱Les tombes creusées d'avance (全6部 総唱)	⑲Les enfants n'euvent plus peur ㉑Des profondeurs maternelles (全6部 総唱)	㉑ Et la bêtise et la démençe ㉒ Lit la bêtise et la démençe ㉓ Et la bêtise et la démençe T (休) ㉔ Et la bêtise et la démençe ㉕ Lit la bêtise et la démençe ㉖ Et la bêtise et la démençe
Ch2	全	⑰La terre utile effaçà ⑱Les tombes creusées d'avance (全6部 総唱)	⑲Les enfants n'euvent plus peur ㉑Des profondeurs maternelles (全6部 総唱)	㉑ Et la bêtise et la démençe

	53	<p><i>f</i> (<i>ff</i> <i>éclatant</i> = <i>M</i>, <i>Br</i>)</p> <p>② Et la bassese firent place ③ A des hommes frères des hommes</p> <p>(全6部 総唱)</p>	57 <i>p</i> (<i>ff</i> = <i>Sl</i> , 2 の <i>sofi</i>)	59 <i>f</i> (<i>fff</i> - <i>M</i> , <i>Br</i>) <i>ff</i> ↷
Ch1	全	<p>② Et la bassese firent place ③ A des hommes frères des hommes</p> <p>(全6部 総唱)</p>	<p>② Ne luttant plus contre la vie</p> <p>③ Ne luttant plus contre la vie</p> <p>④ Ne luttant plus contre la vie</p> <p>⑤ Ne luttant plus contre la vie</p> <p>B (林)</p> <p>⑥ Ne luttant plus contre la vie</p>	<p>⑤' A des hommes (×2) indestructibles</p> <p>⑤ A des hommes indestructibles</p> <p>⑤' A des hommes (×2) indestructibles</p> <p>⑤ A des hommes indestructibles</p> <p>⑤ A des hommes indestructibles</p> <p>⑤' A des hommes (×2) indestructibles</p> <p>⑤' A des hommes (×2) indestructibles</p>
Ch2	全	<p>② Et la bassese firent place ③ A des hommes frères des hommes</p> <p>(全6部 総唱)</p>	<p>② Ne luttant plus contre la vie</p>	<p>⑤' A des hommes (×2) indestructibles</p>
		(全6部 総唱)	(全6部 総唱)	(全6部 総唱)
		歌詞配置はCh1に同じ		

I De tous les printemps du monde (この世のすべての春の中で)

極めてゆったりと J=60

1 限りなく優しく

	<i>f</i> 1	<i>f</i>	<i>f</i>	7	<i>mp</i>	<i>p</i>	<i>f</i>	12 <i>pp</i>
S		最も優しい				②この春が最も優しい	最も優しい	③僕のすべての生きる態度の中で
M		最も優しい					最も優しい	
A				①この世のすべての春の中で	この春が最も優しい	最も優しい		
T						最も優しい	最も優しい	
Br						最も優しい	最も優しい	③僕のすべての生きる態度の中で
Bs						最も優しい	最も優しい	③僕のすべての生きる態度の中で
S						最も優しい	最も優しい	
M						最も優しい	最も優しい	
A						最も優しい	最も優しい	
T						最も優しい	最も優しい	
Br	(半数のみ) ↓					最も優しい	最も優しい	
Bs	①この世のすべての春の中で	②この春が最も優しい	最も優しい			最も優しい	最も優しい	(全員)

2

	15 <i>mf</i>	17 <i>f</i>	18 <i>pp</i>	19 <i>mf</i>	< <i>f</i>
S			⑦この僕は嵐の中で眠り		
M	③信頼が最も良い		⑦この僕は嵐の中で眠り	⑧そして澄んだ目で起きる	
A	④信頼が最も良い		⑦この僕は嵐の中で眠り	⑧そして澄んだ目で起きる	
T	④信頼が最も良い		⑦この僕は嵐の中で眠り	⑧そして澄んだ目で起きる	
Br	④信頼が最も良い		⑦この僕は嵐の中で眠り	⑧そして澄んだ目で起きる	
Bs	④信頼が最も良い		⑦この僕は嵐の中で眠り	⑧そして澄んだ目で起きる	
S					
M					
A		⑤草が雪を持ち上げる		⑥墓石のような雪を	
T		⑤草が雪を持ち上げる		⑥墓石のような雪を	
Br		⑤草が雪を持ち上げる		⑥墓石のような雪を	
Bs		⑤草が雪を持ち上げる		⑥墓石のような雪を	

3		22 mf	24	<	f	26 p	28 mf	<	30 ff	>	pp
S							⑬怪物達の話は聞こえない		⑭奴らのことは知っている		奴らは全部喋った
M							⑬怪物達の話は聞こえない		⑭奴らのことは知っている		奴らは全部喋った
A							⑬怪物達の話は聞こえない		⑭奴らのことは知っている		奴らは全部喋った
T							⑬怪物達の話は聞こえない		⑭奴らのことは知っている		奴らは全部喋った
Br							⑬怪物達の話は聞こえない		⑭奴らのことは知っている		奴らは全部喋った
Bs							⑬怪物達の話は聞こえない		⑭奴らのことは知っている		奴らは全部喋った
S	⑨緩やかな短い時が終わる	⑩僕の内密な隠れ家の数々									⑰僕には
M	⑨緩やかな短い時が終わる	⑩僕の内密な隠れ家の数々									
A	時が 終わる	⑩僕の内密な隠れ家の数々									
T	短い時が 終わる	⑩僕の内密な隠れ家の数々									
Br		⑩【そこを 道全てが通らねばならなかった】									
Bs											

3

4

5		32 pp	34	35 pp (Ch2-ppp)	<	f	>	ff	38 subito	>	pp
S				⑮いまに倒すと信じる顔			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
M				⑮いまに倒すと信じる顔			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
A							あの支配者たちを		あの支配者たち		を
T				⑮いまに倒すと信じる顔			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
Br				⑮いまに倒すと信じる顔			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
Bs				⑮			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
S	見えない うつくしい顔しか	⑯自分達を信じる	良い顔	⑮			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
M	⑮ うつく - - - しい	か - - -	お	⑮			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
A	⑮ うつく - - - しい	か - - -	お	⑮			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
T	⑮ 自分 達を	信じる良い	か - お	⑮			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
Br	⑮ 良 - - - い	か - - -	お	⑮			あの支配者たちを		あの支配者たち		を
Bs				⑮			あの支配者たちを		あの支配者たち		を

5

極めて柔らかく滑らかに

輝かしく



II En chantant les servantes s'élancent... (歌いながら修道女たちは駆け出す...)

原注・ソプラノとアルト以外の歌詞は明確に聞こえなくてよい

[6] きわめて活発に明確なリズムで J=152

	(小節)1	3f	5p	8 mf	mf
S				③乙女らは薄化粧で 素早く跪く	④換気窓にかけられ
M	①歌いながら修道女らは駆け出す			素早く跪く	④換気窓にかけられ
A	ラ	pララララララ	ララララララ	ラ mfラララ	ラララララララララ
T				③乙女らは薄化粧で 素早く跪く	④換気窓にかけられ
Br					⑤一つの経験のように
Bs					
S				f(violent) ④その手は	f ⑤青い
M		②清めるために	人殺しの場を	f(violent) ④その手は	f ⑤青い
A	ララララララララ	ララララララ	ララララ	ララララ	ラララララララ
T				f(violent) ④その手は	f ⑤青い
Br					
Bs					

[7]

	11 f	12 ff	mf	16 pp 急激に	18 減速せず
S				③乙女らは薄化粧で 素早く跪く	
M		①歌いながら修道女らは駆け出す		③乙女らは薄化粧で 素早く跪く	
A		fラ	ララララララ	③乙女らは薄化粧で 素早く跪く	ラララララララララ
T		f ①歌いながら	ラ	ララララララ	
Br				その手	その手 換気
Bs					
S	⑥ある愉快な朝早く				④その手は換気窓にかけられ
M	⑥ある愉快な朝早く		f ②清めるために	人殺しの広場を	ラララララララ
A		fラララララララ	f ②清めるために	人殺しの広場を	ラララララララ
T	⑥ある愉快な朝早く		mfララララララ	ラ	③乙女たちは薄化粧で 素早く跪く
Br	⑥ある愉快な朝早く				
Bs					

	20 f 急激に		22 f 非常に激しく		24
S					
M	⑤ 青い 一つの経験のように	⑦直視	せよ 彼女らの 手を 死者たちよ	⑧直視	せよ 彼女らの 澄んだ 目を
A	ララララ ララララ ラ	⑦直視	せよ 彼女らの 手を 死者たちよ	⑧直視	せよ 彼女らの 澄んだ 目を
T		⑦直視	せよ 彼女らの 手を 死者たちよ	⑧' 視せよ直視せよ	彼女らの澄んだ 目を
Br		⑦直視	せよ 彼女らの 手を 死者たちよ	⑧直視	せよ 彼女らの 澄んだ 目を
Bs		⑦直視	せよ 彼女らの 手を 死者たちよ	⑧直視	せよ 彼女らの 澄んだ 目を
S					
M					
A					
T					
Br					
Bs					

	26 f	f	29 f 非常に激しく	32 f	m f
S					
M					⑫広大な水の中に
A					⑫大切な (水の)
T					
Br					
Bs					
S					
M					
A					
T					
Br					
Bs					

	35 <i>pp</i> 柔らかくしかし明確に <i>p</i> 極めて滑らかに	38 <i>pp</i>
S	⑬最後の時間の身支度	⑬美徳の潤れた井戸に
M	⑭最後の時間の身支度	⑭美徳の潤れた井戸に
A		⑮美徳の潤れた井戸に
T		⑯ひとつの感動の思い出
Br		⑰長く堪りかねる 不在に
Bs		
S		⑱たった一つの感動の思い出
M		⑲たった一つの感動の思い出
A	* <i>ppp</i> ⑳さいごのじかんの	⑳長く堪りかねる 不在に
T		<i>pp</i> ㉑たった一つの感動の思い出
Br		
Bs		

*アルト2=詩篇歌のように平板に歌く

柔らかく極めて滑らかに

	42 <i>pp</i> (Sのみ <i>p</i>)	44 <i>p</i>	46 <i>mf</i> <i>p</i> <i>pp</i> ㉒長く > <i>ppp</i>
S	㉒それから奴らは溺れるのだ とても柔かな体に		あの よ わ さ
M	㉒それから 奴らは 溺れる のだ		あの よ わ さ
A	㉒それから 奴らは 溺れる のだ		あの よ わ さ
T	㉒それから 奴らは 溺れる のだ		あの よ わ さ
Br	㉒それから 奴らは 溺れる のだ		あの よ わ さ
Bs			よ わ さ
S		㉓あの弱さの 威力に	よ わ さ
M		㉓あの弱さの 威力に	よ わ さ
A		㉓とても柔かな体に	よ わ さ
T			よ わ さ
Br		㉔あの弱さの 威力に	よ わ さ
Bs		㉔とても柔かな体に	よ わ さ

III Aussi bas que la silence (沈黙のように低い)

11 非常に静かに暗く J=50

12

	1 p	5	7 pp	10
S			④単調で鈍い	⑤まるで秋の日の沼のように
M			④単調で鈍い	⑤まるで秋の日の沼のように
A			④単調で鈍い	⑤まるで秋の日の沼のように
T			④単調で鈍い	⑤まるで秋の日の沼のように
Br				⑤まるで秋の日の沼のように
Bs				
S				
M				
A	①沈黙のように低い、②大地に植えられた死者の沈黙のように	③頭の中にはただ暗闇ばかり		
T	①沈黙のように低い、②大地に植えられた死者の沈黙のように	③頭の中にはただ暗闇ばかり		
Br	①沈黙のように低い、②大地に植えられた死者の沈黙のように	③頭の中にはただ暗闇ばかり		
Bs	①沈黙のように低い、②大地に植えられた死者の沈黙のように	③頭の中にはただ暗闇ばかり		

Ch 1 休み

Ch 2 休み

この上なく優しく

非常になめらかに・大きなクレシェンド

13 非常に滑らかに

エコーして

	11	12	16 p	ppp
S	⑥くすんだ恥辱で覆われた沼のように	⑧そして黄金の獣たちを失い		人間どもに
M	⑥くすんだ恥辱で覆われた沼のように	⑧そして黄金の獣たちを失い		~口を閉じて~
A	⑥くすんだ恥辱で覆われた沼のように	⑧そして黄金の獣たちを失い		~口を閉じて~
T	⑥くすんだ恥辱で覆われた沼のように	⑧そして黄金の獣たちを失い		人間どもに
Br	⑥くすんだ恥辱で覆われた沼のように	⑧そして黄金の獣たちを失い		
Bs				
S		⑦毒は自らの花を失い	⑧そして黄金の獣たちを失い	
M		⑦毒は自らの花を失い	⑧そして黄金の獣たちを失い	
A		⑦毒は自らの花を失い	⑧そして黄金の獣たちを失い	
T		⑦毒は自らの花を失い	⑧そして黄金の獣たちを失い	
Br		⑦毒は自らの花を失い	⑧そして黄金の獣たちを失い	
Bs				

IV Toi ma patiente... (きみ、僕の辛抱強い人)

(合唱1のみ) 14 1=60 極めて穏やかに優しく

15

	1 pp	4 p	<i>mf</i> \rightarrow p	8 pp subito
Ch1	S ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 M ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 A ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 T ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 Br ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 Bs ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親	② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン	② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン	① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親

不長調

16 極めてレガートで

輝かしく

	11 p	15 <i>mf</i>	<i>f</i> \rightarrow p	28 <i>ff</i>
Ch1	S ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン M ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン A ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン T ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン Br ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン Bs ② 宙に浮いた喉 緩慢な夜のオルガン	③ その恵みの中にすべての天体を隠す静しさ ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親	④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる ④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる ④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる ④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる ④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる	④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる ④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる ④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる ④ 整えよ報復のための床を そこから僕は生まれる

変二長調

変二長(短)調 (曖昧)

短調

不短調

17 極めて優しく

	23 pp	25 p	27 pp	<i>f</i> \rightarrow <i>f</i> \rightarrow <i>mf</i> 淡々と
Ch1	S ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 M ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 A ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 T ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 Br ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親 Bs ① きみ 僕の辛抱強い人 僕の辛抱 僕の肉親	② 宙に浮いた喉 ② 宙に浮いた喉 ② 宙に浮いた喉 ② 宙に浮いた喉	④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を	④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を ④ 整えよ報復のための床を

不長調

不短調

不長調

V Riant du ciel et des planètes ... (空と惑星たちを笑う...)

J=184 非常に速く荒々しく

	1 * $f(p)$ **	2 $f(mf)$	3 f' (mf)	5 f' (f)	6 f'	7 mf (pp)
S	①空と惑星たちを笑う					③底
M	惑星たちを笑う		③利	口な奴ら ④息子を欲しがる		底
A	惑星たちを笑う		利	口な 奴ら 息子を	⑤衰	狂っ
T			利	口な 奴ら 息子を	衰	狂っ
Br	惑星たちを笑う		利	口な 奴ら 息子を	え死に絶えるまで	狂っ
Bs			利	口な 奴ら 息子を	え死に絶えるまで	
S	②自	信のしみ込んだ口		⑤息	子のそのまた息子も	⑦時
M		しみ 込んだ 口		息	子のそのまた息子も	は狂った者たちのことしか料にかけない
A		しみ 込んだ 口		欲し	がる 息子も	狂った 者たちの こと しか
T				欲し	がる 息子も	狂った 者たちの こと しか
Br		しみ 込んだ 口		欲し	がる 息子も	
Bs						

	8 $mf(p)$	9 f'	f'	12 f' (p)	14 f' (p)	15 f' (f)
S	知れぬ深み だけが 緑なす			と惑星たちを笑う		
M	知れぬ深み だけが 緑なす		①空	惑星たちを笑う		
A	た者たちの こと しか		笑い物	惑星たちを笑う		⑨ 利
T	た者たちの こと しか		笑い物	惑星たちを笑う		利
Br	た者たちの こと しか		笑い物	惑星たちを笑う		利
Bs	た者たちの こと しか		笑い物			利
S				②自	信のしみ込んだ口	
M		③利	利口な奴らは 笑い物 笑い物		しみ 込んだ 口	
A		わ	わ 笑い物 だ		しみ 込んだ 口	⑤息
T		わ	わ 笑い物 だ			息
Br		わ	わ 笑い物 だ		しみ 込んだ 口	息
Bs		わ	わ 笑い物 だ			

	16#	17#	18 mf(pp)	19 mf(m)	20#
S				⑧底	知れぬ深み だけが 緑なす
M	⑤衰	え死に絶えるまで		底	知れぬ深み だけが 緑なす
A	衰	え死に絶えるまで		狂	った者たちの こと しか
T				狂	った者たちの こと しか
Br	衰	え死に絶えるまで		狂	った者たちの こと しか
Bs				(*テノール半数のみ)	
S	子のそのまた息子も		⑦時	は	狂った者たちしか 頼にかけない
M	子のそのまた息子も				狂った 者たちしか
A	子のそのまた息子も				狂った 者たちしか
T	子のそのまた息子も				狂った 者たちしか
Br	子のそのまた息子も				
Bs					

	22#	24# (p)	26# (p)	27# (m)	28# (m)	29#
S	利口な者たちは 笑い物		②日	信のしみ込んだ口	⑤また息	子のそのまた息子も
M	利口な者たちは 笑い物		②自		また息	子のそのまた息子も
A	利口な者たちは 笑い物			しみ 込んだ 口	欲し	がる 息子を
T	利口な者たちは 笑い物			しみ 込んだ 口	欲し	がる 息子を
Br	利口な者たちは 笑い物			しみ 込んだ 口	欲し	がる 息子を
Bs	利口な者たちは 笑い物				欲し	がる 息子を
S	利口な者たちは 笑い物 ①空	と惑星たちを笑う		③利	口な者たち ④息子を欲しがる	
M	利口な者たちは 笑い物	惑星たちを笑う		利	口な者たち 息子を欲しがる	⑥衰え
A	利口な者たちは 笑い物	惑星たちを笑う			利口な 者たち 息子を	衰え
T	利口な者たちは 笑い物				利口な 者たち 息子を	衰え
Br	利口な者たちは 笑い物	惑星たちを笑う			利口な 者たち 息子を	衰え
Bs					利口な 者たち 息子を	衰え

非常に荒々しく 減速せず

	30 <i>f(m)</i>	31 <i>f(n)</i>	32 <i>f(o)</i>	33 <i>f(p)</i>	<i>f'</i>	<i>f''</i>
S	は狂った者たちのことしか秤にかけない		利口な者たちは 笑い物			笑い物
M	狂った者たちの こと しか		利口な者たち 利口な者たち			笑い物
A	狂った者たちの こと しか		利口な者たち 利口な奴ら			笑い物
T	狂った者たちの こと しか		利口な奴らは 笑い物			笑い物
Br			利口な者たち 利口な者たち			笑い物
Bs			利口な者たち 利口な者たち	⑨		笑い物
S	⑨底	知れぬ深み だけが 緑なす		⑨そして	利口な者たちは 笑い物	笑い物 笑い物
M	底	知れぬ深み だけが 緑なす		利	口な者たち 利口な者たち	笑い物 笑い物
A	そこ	狂った者たちの ことしか		利	口な者たち 利口な者たち	笑い物 笑い物
T	そこ	狂った者たちの ことしか		そして	利口な者たちは 笑い物	笑い物 笑い物
Br	そこ	狂った者たちの ことしか		利	口な者たち 利口な者たち	笑い物 笑い物
Bs				利	口な者たち 利口な者たち	笑い物 笑い物

注) * 強弱欄の数字は小節数を表わすが、この曲の歌詞の各行は、全てアウフタクトで開始するため、歌詞の最初の音節は、厳密には、数字で示した小節の1拍目ではなく、前小節の最後の1拍から始まっている。

** 強弱記号のうち、太字のものは歌詞の太字のパートの強弱を示す。太字記号の後に (n) 等の括弧付き記号があるものは、細字パートの強弱を示す。括弧付き記号のない強弱記号は、当該箇所全パートの強弱を示す。

歌詞の明朝体は原詩の通りの詩句に付曲されていることを示し、丸数字①②…は、その詩句にあたる原詩の行数を示す(本文参照)。イタリック体は作曲者の詩句操作(主に一部削除)を含む歌詞。詩行の繰り返しはすべてブレイクによるもので、エリユーゴールによるものではない。繰り返しのパターンについては、本文で詳述する。

? この低音部3パートの歌詞は原語でも「非文」であるが、その理由については「付曲について」で考察する。

VI Le jour m'étonne et la nuit me fait peur (昼が僕を驚かせ 夜が僕を怖がらせる...)

コーラスのみ

・ソプラノの歌詞は特に注意してよく聴くこと

25 極めて柔らかに落ちて J=54
I p (p p) 非常に滑らかに

S	昼が僕を驚かせ	夜が僕を怖がらせる	夏が僕につきまとい	冬が僕を追いかけける	5 非常に p (p p)	一匹の動物が	雪の上	下ろした	砂の上	その足を	砂の上	或いは泥の中にも
M	昼が僕を	驚かせ	夏が	僕につきまとい	僕を	下ろした	砂の上	その足を	泥の中にも			
A	昼が僕を驚かせ	夜が				一匹の	動物が	雪の上				
T			夏	が	僕につきまとい	僕を	追いかける					
Br												
Bs												

26 5 非常に p (p p)

27 15 p (p p)

S	僕の足跡より遥か遠く	から来た	その足を	一本の野道にも	そこで死は	痕跡を持っている	生命の					
M							生命の					
A	より遥か	遠く	から来た	その足	一本の野道にも	そこで死は						
T	より遥か	遠く	から来た	その足	一本の野道にも	そこで死は	生命の					
Br							生命の					
Bs	より遥か	遠く	から来た	その足	一本の野道にも	そこで死は						

	17 pp (ppp) 悲嘆	絶対に減速せず	ppp (pppp)	
S	そして冬	冬が	僕を	追いかける
M	そして冬	冬が	僕を	追いかける
A	そして冬	冬が	僕を	追いかける
T	そして冬	冬が	僕を	追いかける
Br	そして冬	冬が	僕を	追いかける
Bs	そして冬	冬が	僕を	追いかける

VII La menace sous le ciel rouge 脅威は赤い空の下へ

28 怒りを込めて荒々しく = 84

		1 f	f	f
Ch1	A	①脅威は 赤い空の下へ	②来ていた 顎の下から	③剥片の下から 輪の下か

29

		5 f	10	11
Ch1	S A T	-ら ①脅威は 赤い空の下へ	①脅威は赤い空の下へ ②a来ていた ③a剥片の下から	②来ていた 顎 ②b顎の下から
Ch2	A T	①脅威は 赤い空の下へ	②来ていた 顎の下から	②b顎の下から

30

		10	11
Ch1	A T	①脅威は 赤い空の下へ	②a来ていた ③a剥片の下から

31

		12	13 f
Ch1	S A Br	の下から ③b輪の下から	-ら -た ①脅威は 赤い空の下へ
Ch2	S M A T Br	③剥片の下か ②a来てい ③b輪の下から	②来ていた 顎の下から ③剥片の下から 輪の下か ①脅威は 赤い空の下へ ②来ていた 顎の下から ③剥片の下から 輪の下か ①脅威は 赤い空の下へ ②来ていた 顎の下から ③剥片の下から 輪の下か ①脅威は 赤い空の下へ ②来ていた 顎の下から ③剥片の下から 輪の下か

		17 ff	19 ff 非常に暴力的に	
Ch1	S M A T Br Bs	①滑りやすく重い・本の鎖から ④滑りやすく重い一本の鎖から ④滑りやすく重い一本の鎖から -ら ④滑りやすく重い一本の鎖から	⑤ bだから死は ⑦ a 律儀に受け取った	
Ch2	S M A T Br Bs	-ら -ら -ら ら -ら	⑤ 命は配られていた ⑥ a 惜しげなく 命は配られていた ⑥ a 惜しげなく ⑦ b その責	

		23	24	26 ff	28 ff
Ch1	S M A T Br Bs		③死は愛の神であった ⑨死は愛の神であった ⑨死は愛の神であった ⑨死は愛の神であった ⑨死は愛の神であった	⑩そして勝利者たちは接物の間に ⑩そして勝利者たちは接物の間に ⑩そして勝利者たちは接物の間に ⑩そして勝利者たちは接物の間に ⑩そして勝利者たちは接物の間に	⑩自分の犠牲者達の上で消え失せていた ⑩自分の犠牲者達の上で消え失せていた ⑩自分の犠牲者達の上で消え失せていた ⑩自分の犠牲者達の上で消え失せていた ⑩自分の犠牲者達の上で消え失せていた
Ch2	S M A T Br Bs	-物を⑧気前よく納められたそれを 物を⑧気前よく納められたそれを -物を⑧気前よく納められたそれを			⑫その ⑫その ⑫その ⑫その ⑫その

少し緩めて

33 突然前のテンポの倍速く

		31	35 自由に	38 p < f	39 f > 非常に強く p
Ch1	M A Br		12) 心 12') 心	13) それでも赤い空の下 14) 血への欲望の下	15) 穴
Ch2	S M A T Br Bs		13) それでも空の下 赤い空の下	13) 悲痛な飢餓の下 14) 悲痛な飢餓の下 15) 悲痛な飢餓の下 16) 穴	16) 穴 - 倉は閉まった - 倉は閉まった - 倉は閉まった

34 「J」元のテンポに。

38 までずっと非常に柔らく

35

36

		42 pp 極めてレガートで	47	51 <i>f subito</i>
Ch1	全	17) 役立つ土地が消し去った (全6部 総唱)	18) 前もって掘られた墓穴を (全6部 総唱)	19) 子供たちははや怖れなかつた (全6部 総唱)
Ch2	全	17) 役立つ土地が消し去った (全6部 総唱)	18) 前もって掘られた墓穴を (全6部 総唱)	19) 子供たちははや怖れなかつた (全6部 総唱)
				20) 母のような深さを 21) 母のような深さを 22) 母のような深さを 23) 母のような深さを 24) 母のような深さを 25) 母のような深さを 26) 母のような深さを 27) 母のような深さを 28) 母のような深さを 29) 母のような深さを 30) 母のような深さを 31) 母のような深さを 32) 母のような深さを 33) 母のような深さを 34) 母のような深さを 35) 母のような深さを 36) 母のような深さを 37) 母のような深さを 38) 母のような深さを 39) 母のような深さを 40) 母のような深さを 41) 母のような深さを 42) 母のような深さを 43) 母のような深さを 44) 母のような深さを 45) 母のような深さを 46) 母のような深さを 47) 母のような深さを 48) 母のような深さを 49) 母のような深さを 50) 母のような深さを 51) 母のような深さを 52) 母のような深さを 53) 母のような深さを 54) 母のような深さを 55) 母のような深さを 56) 母のような深さを 57) 母のような深さを 58) 母のような深さを 59) 母のような深さを 60) 母のような深さを 61) 母のような深さを 62) 母のような深さを 63) 母のような深さを 64) 母のような深さを 65) 母のような深さを 66) 母のような深さを 67) 母のような深さを 68) 母のような深さを 69) 母のような深さを 70) 母のような深さを 71) 母のような深さを 72) 母のような深さを 73) 母のような深さを 74) 母のような深さを 75) 母のような深さを 76) 母のような深さを 77) 母のような深さを 78) 母のような深さを 79) 母のような深さを 80) 母のような深さを 81) 母のような深さを 82) 母のような深さを 83) 母のような深さを 84) 母のような深さを 85) 母のような深さを 86) 母のような深さを 87) 母のような深さを 88) 母のような深さを 89) 母のような深さを 90) 母のような深さを 91) 母のような深さを 92) 母のような深さを 93) 母のような深さを 94) 母のような深さを 95) 母のような深さを 96) 母のような深さを 97) 母のような深さを 98) 母のような深さを 99) 母のような深さを 100) 母のような深さを

		53	f (BF 輝かしく=M, B)	57 p (ff=SL2のソロ)	59 f (ff=M, B) f
Ch1	全	②卑劣な行為とが場所を譲った ③人間たちの兄弟の人間たちに (全6部 総唱)	②もう命と戦うことのない ③もう命と戦うことのない ④もう命と戦うことのない ⑤もう命と戦うことのない B (休)	②' 滅ぼし得ぬ人間たち 人間たちに ③ 滅ぼし得ぬ 人間たちに ④' 滅ぼし得ぬ人間たち 人間たちに ⑤ 滅ぼし得ぬ人間たちに ⑥ 滅ぼし得ぬ 人間たちに ⑦' 滅ぼし得ぬ人間たち 人間たちに	
Ch2	全	②卑劣な行為とが場所を譲った ③人間たちの兄弟の人間たちに (全6部 総唱)	②もう命と戦うことのない	②' 滅ぼし得ぬ人間たち 人間たちに (全6部 総唱) 歌詞配置と練り返しはCh1と同じ	

VIII Liberté (自由) 歌詞配置概略図

m	強弱	Liberté Paul Eluard	連	自由	合唱1	合唱2	調性
1 3 5 7	<i>pp</i>	Sur mes cahiers d'écolier Sur mon pupitre et les arbres Sur le sable sur la neige J'écris ton nom	1	小学校のノートに 勉強机に 木に 砂に 雪に きみの名を書く	SMAT ----- -----	[=====]	J=80 E
9 11 13 15	<i>p</i> <i>subito f</i> <i>f > p</i>	Sur toutes les pages lues Sur toutes les pages blanches Pierre sang papier ou cendre J'écris ton nom	2	読んだ頁すべてに まだ白い頁すべてに 石 血 紙 あるいは 灰に きみの名を書く	SMAT ----- -----	[=====]	E エオリソ
17 19 20 22	<i>mf</i> < <i>f</i> > <i>p</i>	Sur les images dorées Sur les armes des guerrier Sur la couronne des rois J'écris ton nom	3	金色の聖画に 兵士たちの武器に 王の冠に きみの名を書く	ATR -----	MATRB [-----]	J=96 Cis
24 26 27 28	<i>pp subito</i> <i>mf</i> < <i>f</i> > <i>p</i>	Sur la jungle et le désert Sur les nids sur les gonêts Sur l'écho de mon enfance J'écris ton nom	4	ジャングルと砂漠に 鳥の巢に エニシダに 幼年期の残響に きみの名を書く	MATRB -----	=====	Des F
29 31 33 35	<i>pp subito</i> <i>sans cresc.</i>	Sur les merveilles des nuits Sur le pain blanc des journées Sur les saisons fiancées J'écris ton nom	5	夜々の不思議に 日々の白いパンに つながってゆく季節に きみの名を書く	[AR]	=====	J=120 F A
37 39 40 42	<i>f</i> <i>ff</i> >	Sur tous mes chiffons d'azur Sur l'étang soleil moisi Sur le lac lune vivante J'écris ton nom	6	青空の切れ端すべてに かびの生えた太陽の池に 輝く月の湖に きみの名を書く	[AR]	=====	D G
44 46 47 49	<i>f</i> <i>ff</i> <i>ff</i>	Sur les champs sur l'horizon Sur les ailes des oiseaux Et sur le moulin des ombres J'écris ton nom	7	畑に 地平線に 鳥たちの翼に 影の風車に きみの名を書く	=====	[AR]	J=132 C H
50 52 53 55	<i>p subito</i> <i>mf</i> < <i>f</i> <i>f</i> > <i>p</i> >	Sur chaque bouffée d'aurore Sur la mer sur les bateaux Sur la montagne démente J'écris ton nom	8	暁に吹く風々に 海に 船に 荒れる山に きみの名を書く	MATB -----	MATB [=====]	H Fis
57 58 59 60	<i>p (pp)</i> <i>f (mf)</i>	Sur la mousse des nuages Sur les sueur de l'orage Sur la pluie épaisse et fade J'écris ton nom	9	雲たちの泡に 嵐の汗に どしゃぶりの雨に きみの名を書く	[AR]' [AR] [AR]	=====	Fis
62 63 64 63*	<i>p subito(pp)</i> <i>f (p)</i> <i>f (p)</i>	Sur les formes scintillantes Sur les cloches des couleurs Sur la vérité physique J'écris ton nom	10	きらきら光るものたちに 色彩豊かな鐘の音に 自然の真理に きみの名を書く	=====	[AR] [AR]' × ×	J=138 Fis Cis
65 66 67 68	 <i>ff (f)</i> <i>ff</i> <i>ff (mf)</i>	Sur les sentier éveillés Sur les routes déployées Sur les places qui débordent J'écris ton nom	11	目覚めた小径に 広がった道路に ごった返す広場に きみの名を書く	=====	[AR] [AB]'	Cis C A H

70	<i>pp</i>	Sur la lampe qui s'allume	12	ともる灯りに	SMAR		H
71		Sur la lampe qui s'éteint		消える灯りに	SMAT		Es
72	<i>p</i>	Sur mes maisons réunies		一つになった僕の家々に	S [MRB]	S [MRB]	
72*		J'écris ton nom		きみの名を書く	×	×	
75	<i>p</i> <	Sur le fruit coupé en deux	13	半分に切られた果実に	ST [MRB]	ST [MRB]	Es
77	< <i>f</i>	Du miroir et de ma chambre		鏡のそして僕の部屋の果実に	————	————	F
79	<i>f</i> >	Sur mon lit coquille vide		虚ろな貝殻の僕のベッドに	SMAT [MRB]	SMAT [MRB]	Fis
80	> <i>p</i>	J'écris ton nom*		きみの名を書く	[MARB]	[MATRB]	
83	<i>pp</i>	Sur mon chien gourmand et tendre	14	食いしん坊で優しい僕の犬に	=====		B
85	<i>mf</i> < <i>f</i> >	Sur les oreilles dressées		びんと立ったその耳に		=====	
86	<i>pp</i>	Sur la patte maladroite		不器用なその前足に	=====		
88	<i>f</i> (<i>p</i>)	J'écris ton nom		きみの名を書く	[AR]	[=====]	
90	<i>p</i>	Sur le tremplin de ma porte	15	戸口の踏台に	[AR]	SMATR	As
92	<i>mf</i> < <i>f</i>	Sur les objets familier		使い慣れた道具に		=====	
93	<i>ff</i>	Sur le flot du feu béni		祝福の火の波に	=====		
94	(<i>p</i> >)	J'écris ton nom		きみの名を書く	[MATB]	[ATB]	
96	<i>p</i> (<i>pp</i>)	Sur toute chair accordée	16	許し合った肌のぜんぶに	=====	[AR]	As
98	(<i>pp</i>)	Sur le front de mes amis		僕らの友達のひたいに	=====	[AR]'	
99		Sur chaque main qui se tend		延べられたそれぞれの手に	[M]	SMATR	
101	(<i>mf</i>)	J'écris ton nom		きみの名を書く	[M-AT]	[SMATR] [B]'	
103	<i>mf</i>	Sur la vitre des surprises	17	驚きのガラス窓に	[AR]'	=====	As
104	<i>mf</i>	Sur les lèvres attentives		沈黙を越えた	=====	[AR]'	B
105	<i>f</i> (<i>f</i>)	Bien au-dessus du silence		注意深い唇に	[ARB]	=====	Es
		J'écris ton nom		きみの名を書く	×	×	
107		Sur mes refuges détruits	18	僕の破壊された隠れ家に	[ARB]'	=====	Es
108		Sur mes phares écroulés		僕の崩壊した前照灯に	=====	[ARB]	H
109		Sur les mur de mon ennui		僕の物憂さの壁に	=====	[ARB]	C
		J'écris ton nom		きみの名を書く	×	×	
110	<i>ff</i> (<i>ff</i>)	Sur l'absence sans désir	19	欲望もない虚ろさに	[ARB]'	=====	des
111	<i>ff</i>	Sur la solitude nue		剥き出しの孤独に	=====	[ARB]'	h
112	(<i>ff</i>)	Sur les marches de la mort		死の歩みに	[AR] [TB]	=====	
		J'écris ton nom		きみの名を書く	×	×	
114	<i>p</i> (<i>pp</i>)'	Sur la santé revenue	20	戻ってきた健康に	[ARTB]'	=====	J=132
116	<i>mf</i>	Sur le risque disparu		消滅した危機に	[AR]'	=====	H
117	<i>f</i> (<i>f</i>)'	Sur l'espoir sans souvenir		思い出のない希望に	=====	[M]'	b
119	<i>fff</i>	J'écris ton nom		きみの名を書く	[=====]	[MmTR+B]	h
120	<i>fff</i>	Et par le pouvoir d'un mot	21	そして一つの言葉の力で	SAT [MRB]	SA [MTRB]	J=80
122		Je recommence ma vie		僕は人生を再開する	SAT [MRB]	SA [MTRB]	h H
124		Je suis né pour te connaître		きみを知るため僕は生まれた	SAT [MRB]	SA [MTRB]	C
126		Pour te nommer		きみを呼ぶため	=====	=====	F
128	<i>fff</i>	Liberté.		自由。	SMmATRB + S.solo	×2	H→E

m=小節数 合唱凡例 : S=ソプラノ、M=メゾソプラノ、A=アルト、T=テノール、R=バリトン、B=バス

大文字+小文字 [Mm] は、このパートがさらに2部に分かれることを示す。

—— は、前行と同じ編成、===== は、全6パートで歌われることを示す。

[] は J'écris ton nom を、[]' は ton nom または nom を示す。

括弧付きの(強弱記号)は、メインの歌詞と同時に歌われるリフレインのもの。